御揃い（ＢＬ）

弥上　月架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
御揃い（ＢＬ）

【Ｎコード】
Ｎ４６１０Ｉ

【作者名】
弥上　月架

【あらすじ】
純情ロマンチカの二次創作です。ＢＬなのでご注意ください。
作者の処女作です

「やっ／／／／、やめてよ・・／／／／うさぎさんっ／／／／」

「本当に、嫌なのか？・・・・」
嫌がる美咲の上に乗り、ニコニコと笑顔を振りまいている宇佐見秋彦

「うっ／／／／うん！／／／／」
顔を赤くして、秋彦を見つめ顔を必死に縦に振る美咲。

「ほ～ぉ・・・・、お前はそんなに俺と御揃いで、ピアス開けるのがそんなに嫌か・・・・」
そういう秋彦の両手には、右手には、ピアッサー。左手には、消毒液を持っているのだ。

「だっ／／／／、だって！！／／／／・・・・うさぎさん！！耳たぶが貫通するんだよ！？痛いんだよ？」
先ほどとは違い今にでも、泣きそうな顔で訴える美咲。

「そうか、なら諦めるか・・・。」
うつむいた表情で、引き出しを開けると消毒液とピアッサーをしまい。自分の書斎へと入ってしまった。

（だって、いくらうさぎさんのお願いでも、無理なものは無理だよ；）

そう、心の中で呟きながらいつものように家事をこなし2時間がたったころ。

（・・・。うさぎさんにコーヒーでも持って行こうかな？／／／）

《コンコン》
「うさぎさん？。あのっ／／／／コーヒー持ってきたんですが／／／？」
さっきのことも謝りたくてさ、ボソっとつぶやくが秋彦には、聞こえず

「うっ／／／うさぎさん！入りますよ？／／／」

《ガチャ。》

「スーーーっスーーーっ」

（あ、やっぱり寝ている・・・。）
机の上にコーヒーを置き家事の続きをしようと、出て行こうとした・・途端！！

「ん？・・・みさきか？」
宇佐見ダイテンテー起床。↑

「あっ／／／おは・・ようううさぎさん（ニコっ）」

満面の笑みで振り向いたが、向いた時にはもう遅く、秋彦の腕の中に包まれていた。

「うっ／／／うさぎさんっ／／／僕まだご飯の準備がっ／／／」
秋彦の腕の中で暴れだす美咲「もう少し、そばに居てくれ・・・美咲・・・。」
刹那そうな顔で美咲を見つめ、抱きしめる秋彦。

（そんなこと、言われたら俺、離れられないじゃん・・／／／）
暴れるのをやめ、おとなしく抱きしめられる美咲。

「さっきは、すまんな・・美咲・・・お前の気持ちも考えないで、耳開けようとして。」
美咲のうなじに顔をうずめ、舌で線を描くように舐める・・

「ひぁっ／／／、大丈夫だよウサギさんっ／／／んぅっ／／／」
悶えながらも必死に答える美咲

「じゃぁ、開けてくれるか？・・・」
秋彦の手が、首から、胸に下がり、上のつぼみをいじり始める。

「あっ／／／イヤッ・・ウサッ／／／ギっさんっ／／／」

「いやいや言うけど、此処は正直だぞ？」
とうとう片手が下の勃起に触りジワジワと美咲を辛くさせる。

「イヤっ／／／ウサギさん！！っ／／／／イッちゃうよぉっ／／／／」

「じゃぁ、一緒にイクか？」

美咲のズボンのチャックに手をつけ、上に着ているものを脱がせ、自らも裸になり、美咲のつぼみに手をやった。

「ァっ／／／」

秋彦は美咲のつぼみに手を入れほぐしていき、自分の自身を入れようとするが、

「ウっ／／サギさんっ／／／焦らさないでっ！／／／／Σうぁぁ！！」

いきなり秋彦が中に入れてきたので、軽く逝ってしまった。

「すまん・・・。美咲、俺も我慢できなくてな・・・・。」

秋彦が、辛い顔で美咲を見つめ上下に動き始める。

「ふぁぁっ／／／／ぁぁあっ／／／／」

「うっ・・キツい・・。」

「ウサギさんっ／／／、もうっ・・ぁぁっ／／／むっ／／／／無理！！／／／／」

一気に美咲のつぼみがキツくなり、秋彦を快楽へと突き落とす。

「・・・・くっ！！／／／／」

秋彦の白濁が美咲のつぼみに注ぎ込まれていく。

「美咲、おめでとう」

ニコニコと秋彦が美咲を見つめ満面の笑みで、見ている。

「ん?、どうしたのうさぎさん?」
いまだに気付かない美咲に秋彦はそこをさした。
「えっ?、耳?・・・。」
鏡を見ると左耳にピアスがあるではないか。
「いやぁー。行為中に開けるのは難しかったな〜」
思い思いに浸っている秋彦。
「ウ、ウサギさんのばか!!;」
鏡に映っている耳たぶを見つめまた眼頭に涙を浮かべていたのだが、
秋彦の方から《バチン!!》
という音がするので振り向いてみると・・・。
「これで、御揃いだな・・・美咲。」
と美咲と同じ場所に開いたピアスを見せてきた。
「ウサギさんっ///」
「美咲、耳・・・安定したらコレ着けような?///」
すこしテレながら、秋彦が出したものは、輪型の片耳用ピアスだった。

ＥＮＤ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4610i/

御揃い（ＢＬ）

2010年11月12日11時15分発行